



不  
審  
紙

1 適  
319  
3





門 鏡  
號 319  
卷 3

伊播



不審紙卷之三目錄

高蒔畫の尿器 たう まきゑ みるくき

正智邪智 せいぢ じゃぢ

越王雪飲尿口 えつおう せつおん せうりく

古墳乃崇 こふん の たか

主徳分親徳分 しゅとくぶん せんとくぶん

*Faint blue ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page.*



不審紙巻三

うす 蔚 経 の 尿 意

尿意おしこいようす蔚経あはとしてうす香合かうごちの

いい。是こゝ無い意い相あすいあるい。竹たけやぞ

貴きくその相あへいたりいもい二ふた交まりいのい廉れんおい相あへい

うう新あたらしいきい意いふいかいるい。此こゝ史しをい蔚あは経けい

していまいのいせいといまい人ひとれい相あはいるいあいまいの

みいもいあいるい心こゝろ出い生いらい後いるいゆいらいにいついてい付いらい

ゆい人ひと是こゝ城じやう買いちいりいもい又また此こゝれい費つひありいるい心こゝろ







あつらんや。夜いそぎ異と凌ぎ肌とのくも城  
 野目とらぬ。ゆるよとひま身不お恋の力に給  
 叶美衣とまじらぬ。襟れ垢はうんよとまひ  
 頸とのくた。一。裾の切らふとまひと地  
 踏して歩む。まじらぬ。汗はんと成る。まじらぬ  
 熊たし。ぬまうに膝よ。拭とまじらぬ。それうんよ  
 子とまじらぬ。その尻とまじらぬ。うん  
 むよ。申して却てまじらぬ。若し。の行よ。あつらん  
 むぞ。何や。と華美れ。衣ありた。十年二十の

月らゆら。一。美衣れ。あつらんよ。ひん  
 新し。き麻衣。あつらんよ。一。美衣れ。悪人  
 の目とまじらぬ。まじらぬ。まじらぬ。まじらぬ  
 ちうら。時。都。く。の。一。こ。れ。人。の。美。衣。一。麻。衣  
 る。る。美。衣。れ。あつらんよ。一。美衣れ。あつらんよ。一。美衣れ  
 要。と。ら。ぬ。美。衣。れ。あつらんよ。一。美衣れ。あつらんよ。一。美衣れ  
 天。井。の。ま。じ。ら。ぬ。美。衣。れ。あつらんよ。一。美衣れ。あつらんよ。一。美衣れ  
 の。お。好。い。ま。じ。ら。ぬ。美。衣。れ。あつらんよ。一。美衣れ。あつらんよ。一。美衣れ  
 ち。ら。り。美。衣。れ。あつらんよ。一。美衣れ。あつらんよ。一。美衣れ。あつらんよ。一。美衣れ







家此天井滅をい卑もたつるす軍中  
 一爰延ししをい心と武井堵ららむ  
 一の家りのたつら切華英あつて  
 ほどく爰建一本柱一松又い儀も牆  
 一風情ありげたるい流石は怪人の心  
 一さくこれりきこの形たいたく  
 一てま人のな形とらるごとくことく  
 一建りし入百華英とけくすし心切  
 一始皇のこれんしに建あり感陽

官人へ心さくことくけとんく  
 難夜と志をさるふりかるとるやそれ  
 一榮と老る勤の助もたつる三月の内  
 一仇火は焼推さら杭本れは死儀の相を本  
 一母も又三年の成長めく生立りのにあ  
 一む。四壁れ家しそもみ人十人の力とけく  
 一建立たるるべしは結りよ不お悉し華英と  
 一きくして大方いせにし系の总倒大坂の  
 一喰例増れ建例たるるべし切石れ井前渡約



緒河榎孫の代も。けくろい普請せぬらんと。  
未東北に見通はむけ。乞とて二十年も  
目出交わす。少いも此費とけくろのよるを  
あんとおへい。もせぬ月一焼捨る  
る者よ多し。緞火災わくた。二十日の内  
稻愛計が。情とよ。平日飲食と  
このひの。暫時古三す。使する外益わく。  
英衣城好樂。あの方。英衣とね。の  
と件の害ありて。身と昔。め都く。じが

恥とけくろい。居宅と飾。あれ。とあおる  
た。居宅城。くろい。功と積。氣とけ  
く。建。立ち。あつて。も。日。火災。好。愛。知。  
く。智と堂。あの方。争。亮。不。お  
意。夜。食。住。と。この。ひ。あ。合。給。不。足。地。結  
の。多。く。と。借。け。智。も。た。り。頭。に。か  
を。或。い。安。住。れ。約。る。を。月。ひ。の。あ。  
る。に。さ。つ。り。あ。り。財。は。あ。ま。し。れ。き。人  
よ。あ。つ。く。お。せ。し。る。志。う。り。と。い。も。色







其賊去は換いおしめづ浮世の世にあらうの  
 と賞の人あり。件此人をさき武歩のなる人  
 ちどい下車にせよきこと。一人杖持が冷込よ  
 ある方ちり。百万二百万のり。由方これ  
 由方智あまらり。何ど怪よ有くゆへるよ万  
 費ちり。一歩もそもさき。あは位の人と。  
 いやーびきなる理あり。悪人の眼に南分の  
 しくえゆるた末く大程ちり。てけりぬ管之  
 徳民目とさかり。して居宅と様よ不審智

とみさかも人よ用ひしゆり。にあり。死  
 りの。賢さより。か。一。ま。は。様。さ。ま。ま。と  
 う。う。う。んと。破法師も。し。れ。ま。り。悪と  
 御。の。心。付。少。学。く。え。ん。と。思。へ。ど。目。善。此。仕  
 り。果。敢。取。い。と。や。う。と。さ。き。も。捨。べ。き。も。て  
 ろ。い。頻。は。砥。此。粉。の。也。免。一。つ。り。

正智邪智

長智は神儒仏をにまらり。せり。あり。あり。あり。  
 虚云よ。た。別。あり。父母。と。て。小。見。此。所。と。換。



又い報竹ぞ血脈お徳の子れ慈とてのりりて  
いしんや別も深乃判敏不動れ大をりり。  
世より一代長流はくくしきく仕ゆる人ど本  
乾つるよと判とるなるよあは流津飯身大実  
位城去り捨身の行として一切流生と安言  
ちししめん乃長流別去宿と形り。言  
便と号つ流難もあゆのちり。今時の傍流  
は方便と見えひけも大流生い地獄へ墮  
てふが念こびよあふがまらぬ只を流しり

のあごやうなちるやうに流ゆ人方便却く  
虚言とありあひうかたれちる切い高乃  
出店中さるいめんじんか流津飯身いのみまんと成  
檀那の死めらるる前賣と見えにしり。或は  
寺乃中堂こけり普くそるまらるる尾塔に  
せんとして時の何おど中此あまらるるなり。な  
かとしてめしれけるもれ云ふあといとく。衣件  
の乾るもあ知立はるいづまもいもあまらるる  
とずんど下り早はよ。あふこまのりぬ鷲

下巻終三



府配市衣を背戸なれ又助七分わくこの中此  
落こぼるもしまでゆりさふ仕を鶏冠の中うさ  
赤い衣は錦は掛落の畦うく云ふ花を  
さうせ一粒も入らぬよまうさ言わと  
いとせぬ抜目のちひおちを。且ねもた足と  
さうせて。ぬくぬくひて。徳あぐ。そひ家  
業は質相。室よのわきど。徳よあぐ。の威の  
去年の落るに。足とまうけて。刃代をよ  
うとうぬれ。親又が中。徳の相入。ちよ。あぐ。業烟

と愛れ仕合の子。何れは代が。負して。欠落  
のと。色と。習ふと。えての。ひひ。一友と。掛ま  
を。ま。あ。で。仕。色。と。ん。わ。あ。り。や。う。げ。ト。と。獲  
秦。と。儀。が。弁。ん。く。して。是。也。ま。あ。と。せ。ん。と。  
脚。止。互。れ。音。我。孔。明。の。呉。公。の。徳。賢。は。悦。む。ゆ  
靴。か。や。う。い。く。く。仏。意。に。う。あ。べ。く。も。も。ん。と。  
け。な。か。く。も。も。れ。耕。不。足。と。や。あ。り。き。ん。ま。と  
十。万。人。道。と。す。く。め。ん。わ。一。百。十。八。束。の。徳。儀。あり  
一。夕。閑。眺。あ。る。所。系。諸。聴。す。け。ら。ふ。和。尚







支ぬたは又百生。其金の肌とす。是れ時乃  
 仏師の仏才子の迦葉。負女いふ者の俗より  
 一財は妻とせしむ。是も迦葉と一度は  
 お家一竹りきりしと。おあるとひていふく。  
 一のめり大音。此人あり。人いひ寺り  
 後ありとす。ても。やうげなる。此後世より。お  
 とて。糸信せん。お加とす。りて。も。欽法乃。お  
 一ちし。お家よ。ぬりけ。後世と。密に。後  
 いふく。おは。念の。若と。寺僧。并に。心若。と。外

聴流の用。お僧徒。あす。こ。人より。彼。仏師。負女  
 と。支ぬ。一。ち。し。と。さ。る。の。長。根。の。助。力。あ。る。は。い。よ  
 理。の。ん。や。一。草。支。ぬ。と。ち。り。ら。る。お。情。は。い。つ  
 せ。又。百。生。此。門。を。か。れ。え。ん。仏。果。の。隣。と。あ。る。と  
 せ。り。從。者。と。ち。り。る。ん。き。因。縁。熟。し。生。れ。出。し  
 ども。い。や。と。交。會。は。縁。は。さ。ん。な。ら。う。の。助。力。を  
 一。支。ぬ。と。あ。る。ん。が。り。大。音。根。の。功。徳。は。り  
 仏。果。の。り。る。よ。又。百。生。ま。で。進。う。る。ん。や。故。に。一  
 世。の。仏。才。子。と。る。僧。徒。の。書。き。の。乃。と。う。る。勢



いやりめりやとらりやと悦びたりや。福地も安  
おもちうぶるまに雨降よと来とさるりて  
肝要のおとせや。まかの功地づり後さる  
心づき。こけり普たるれど仏は不替昌  
尾づきさるれは海交か。とらりなりし  
うらづきと火災と物せと使りがいあまごも  
元来と示後人が方知の心づけ強てい  
わよの或はよき人れわありさと後  
後一人の命もちたはよ軍兵はこれ

けるぐ名徳の借ゆ人後依して強あくふ  
七人食すべきさとちりせれ又と  
他邦破壊れちに後。これおも借仰の人多  
建立ちらせれ別之夜一神ありて出さる後  
任の家牙子他れ牙子の先別ちく海交の力  
あつ借くえれどいばもれさるゆづるをけ所の  
牙子にまごまけるりき人急お強ていく  
元来は心堅固ちこれ建立の癖やまん  
さよ多ク建立すま何かといふありと



け一玄向とちり見識の人今此うとすれど。  
 わると好し。と人と号する人の愚俗と結  
 ぶる。うらゐおなれ破戒いさゝめん。大功  
 連るべし。愚俗人のおれ火とけしん。屋  
 尻とさうぬすに敲付て壺くら外は仕  
 刑もさ中。どは法師日蓮師の而因心も実  
 たもさうとえの俗い俗よあつてさうものちん  
 十作と捨て一僧となせん。肝要あり。乞士奉  
 よね。さうべし。およおさる。此後おちる。む

身身とた心堅固。熟し終り次は法は俗と  
 俗交し。修力あつて愚俗も及べし。別俗  
 身身を平天下に現し。もつる。べし。彼も  
 乃何おちる。且中と一列は呼集。本意  
 修海。昔汝おが先祖に位牌と紙。居て本  
 意法牌の五毒のおよ。朽ぬべきこと。昔は  
 ちぶら。んぬ。よ。各。ま。の。き。よ。せ。ら。り。こ。け。し  
 しく。修。復。す。べし。昔。時。に。何。お。ち。り。と。す。も。

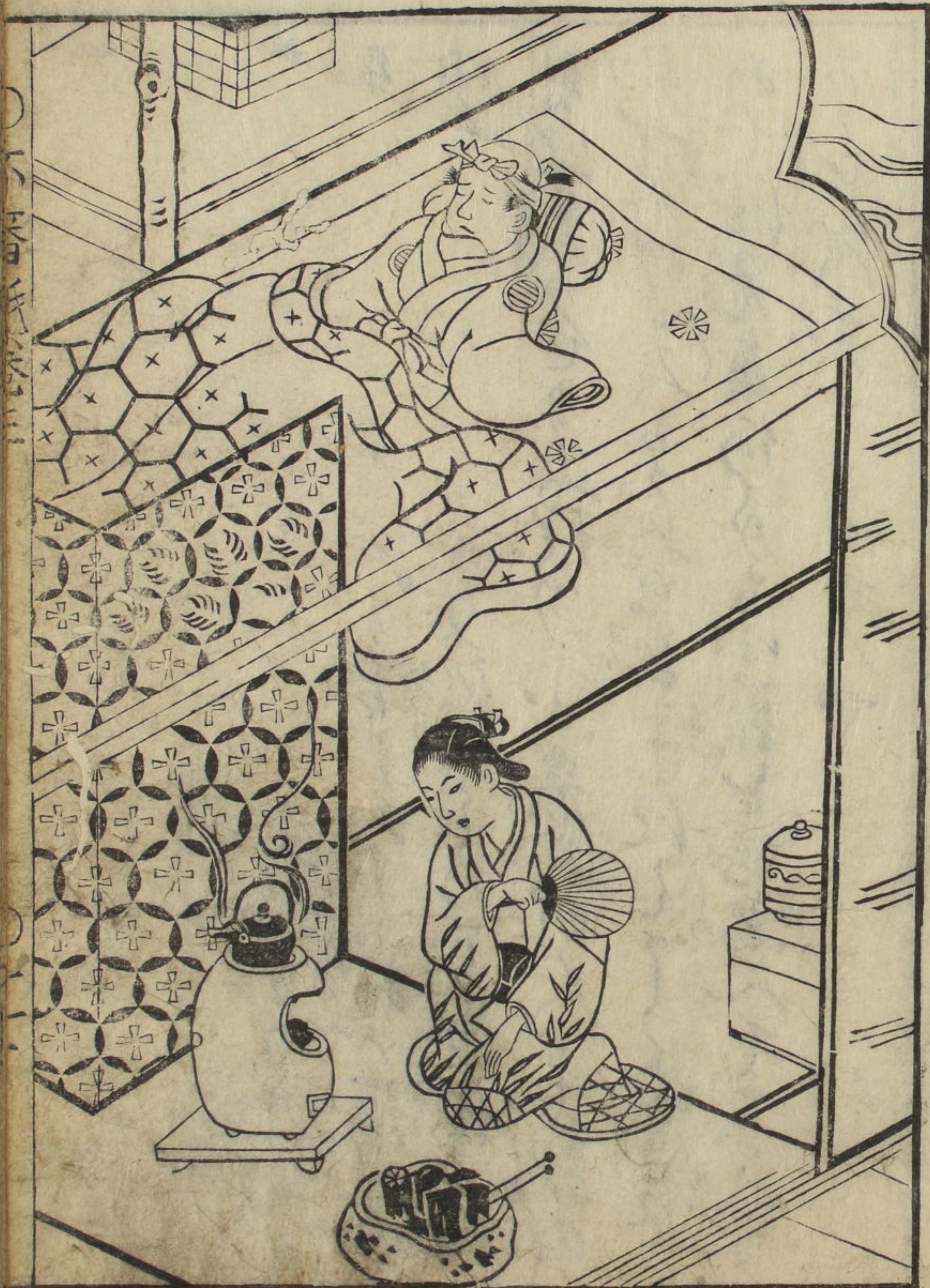












不審録卷三

十六



ちうと横死とさうらふものせに多し武乃及  
あしびは自官に流智の愚があつぬらあつ  
大人の文幣と子日流せり一日の所用  
をよりんと思てはるちうべし結ば流士の  
中身は流君の身あり流りものちうり根よれ  
利に失りせり流あり農事町人も支親の  
身れしけまへちうれが流まにちうべしに  
あつた先自何のちも小義と流悪んで大義と  
ちうと流まへとせんや

右墳乃崇

愚世並ふもせればさかいた大子に入ら  
はちうり一人の兄大病とゆらり醫務藤ん  
とけくところの夫とちうり想とてめらるる  
妻あれ癖として巫女山伏と伝とてあ積  
と惜やあちうひあくまは山伏しこれ巫女  
教とけくしぬ又日蓮宗は宗長の聖人  
初禱者あり是と清とて同は先祖右墳の崇  
ちうり是とあちうどの三人子部結擁してあち



不審終巻三  
つし。書家新此少より色お費入るるゆへ止る  
とゆふ思は侍る。上人も思は白ひ右境のそへ  
るつと向つ思が曰。天よりも降ぬけ身あつる  
境あり聖人曰たあつるまぢ任持り又思侍  
行くまぢべし。愚曰。我の浄去宗あり件乃  
横彼中れあり。まぢ傍と境のあは招どて日  
宗此何ゆと執行せむ。浄あよりゆりことま  
又且形ち候作し思くん。右境の吾祖あり。自  
のく初らん。若し魂境の中にあるものあふ。

子孫のつちのさうねるゆまきとてしひ別  
右境より。洒掃香華を侍へ境より白て  
いと。兄を痛とゆへり。占師は曰い先祖右境  
の宗ありと。神竹の根まで切れしとて  
は兄死せむ。境とあるものも終横も代は  
の横とあるん。子孫自出交あつるお前の宗務  
有べし。恙横れ中に神立て子孫は思ふ  
力あつる。今吾より承りてゆめ多し。兄れ  
病状をよ平愈あつる。めあつと徳てゆりぬ。



ま後政月と磨くは金と敵力とめては  
又い懐れ神乃七加減し人病のくは茶と  
用りり計灸とみく治すべし。まればも茶  
毒にわくはさうさうはあゆべし。薬十八  
反あり。毒薬に巫女山伏と組合すりあり  
色件りくごとく一向彼等と捨べきありわは  
徳惟子の徳阿の出家は頼も電神のさよあり  
巫女觀男れに頼め是風あり。いふ何も  
のとも賣りけ文男世帯をればとて城は座修

皇統へとりこ本業ありとを急すべし  
至徳分親徳分

世よ至徳分親徳分としてまの仕務とわ  
らものあり。徳れははかす徳にまとして  
いれまえさしりあり。如昇の肩はふかありて  
人と脚らしりも。今徳分とくまの人の脚  
と交す。家人の今徳分と人城まじらふも。  
是に力なくし如昇の脚とくはま  
ちくしてあはれ。如昇ちくしてあはれ。是則



お持乃世界あり。家、ぬい家よあつとも家に  
 頼も虫とらや。大猫の頼もても因縁あつて  
 ちか家にあつてんや。況んは其れとの人因  
 縁あつてそち家よ頼もとも。技持合令と垂  
 くつていけつともつひ次第とる。情あつて。陶  
 匠めが白。彼も人れ子なりと是めが子の方へ  
 奴婢とほつてつらつら。何の令と云る。又禄重  
 則の義よ死とといや。とさ小者申る。お主人  
 の厚恩と思ひ。命にうつらつら。あしびうら

世に多し。なるがこれと忠臣のやうよんは  
 一ても。隠しを飛つら。一箇に神。冥時。はれ  
 る大切なる。用れ立りのあり。おろそく思ふ  
 だつとこれあつた。大鶴乃。ま似とつてつらも  
 時中つてその。あつたつら。二千は。密と。密の  
 じんご。げ二密と。あつたつら。の。ちや。む。君不  
 君も。臣。可。なる。臣。父。不。父。と。し。子。不。お。子。や  
 友。つら。の。君。父。の。百。人。の。中。九。十九。人。い。わ。さ  
 せ。活。せ。び。と。し。と。し。と。あ。つ。た。つ。ら。切。あ。つ













Handwritten text in Chinese characters, likely a signature or inscription, written in black ink on the right page. The characters are arranged in two main groups, with the top group being larger and more prominent. The text is written in a cursive style.



